

総務常任委員会行政視察概要

令和元年8月8日（木）

於 静岡市議会 本館2F

議会特別応接室

午前10時00分～午前11時50分

- 1 調査概要・説明…………… 静岡市企画局企画課副主幹
静岡市企画局企画課地方創生推進係主任主事

「SDGs 実施指針の策定及び当該指針に基づく取り組みについて」

静岡市は、地域コミュニティの最小単位である自治会・町内会が抱える地域課題の解決や、市内企業の成長などのために、大学・研究機関、NPO等の市民団体、市内企業などの様々なステークホルダーとパートナーシップを築き、強みを持ち寄って団結し、持続可能なまちづくりを推進している。このパートナーシップを構築するために、ステークホルダーを繋ぐ世界共通の目標であるSDGsを用いることが有効であると考え、SDGs 実施指針を策定した。

その実施指針に基づく取り組みとして、「SDGs ウィーク事業」や「SDGs 推進 TGC しずおか 2019 by 東京ガールズコレクション」など様々な事業を行っている。

また、SDGs 未来都市として国から選定されるとともに、国連から世界各地のSDGs 推進をけん引する都市（SDGs ハブ都市）として位置づけられている。



2 主な質疑応答

問 SDG s と銘打つことで、市の事業は変化してきたか。

答 それぞれの事業を2030年までに目指すべき世界像からバックキャストイングして推進している。

問 SDG s 推進の背景、現状の情報発信は。

答 近年、海洋生物の体内から廃プラが出てくる事例が多くニュースでもよく取り上げられているが、静岡市には東海大学の海洋学部があり、また、紙ストローを作る企業もあったことから、象徴的な取り組みとして、紙ストローの普及などを行っている。このように強みをSDG s に絡めて発信することが重要であると考えている。

また、例えば、市民が海岸の清掃など以前から行っていることについて、その活動が世界の尺度としてSDG s のどこに位置付けられている、という話をすることで理解してもらうというような広報を行っている。

さらに企業に対しては、SDG s に絡めて商品の付加価値を上げるなど、ビジネスチャンスとなり得ることを周知し、うまく活用してもらうよう広報している。

問 事業の立案段階でSDG s に沿っているか判断する基準を持っているか。

答 SDG s の17のアイコンのいずれかを政策に紐づくゴールとして用いるためには、①2030年のあるべき姿から、バックキャストイングにより政策を立案すること、②SDG s のターゲットに基づき設定した指標による進捗管理体制を確立するなどの要件を設けている。

問 SDG s にかこつけて、税金を恣意的に使ってしまうことも考えられる。明確なチェック項目等はあるか。

答 静岡市でも試行錯誤中である。当該事業が、SDG s の経済、環境、社会の3側面においてどのような好影響があるかということの評価するというノウハウがなく、課題であると考えている。今後の総合計画策定に当たり、事業の優先順位をつける際にはSDG s を絡めていく必要があると考えている。

問 学生や子ども達に対して、どのように普及啓発を行っているか。

答 静岡県立大学がSDG s に積極的に取り組んでいる。また、中学生に対しては学

習指導要領に国際社会の中でSDGsを取り上げるように記載されている。小学生に対しては、出前講座などで周知を行っている。なお、学校によっては、中学生が小学校でSDGsについて教えるという事例も出てきている。

小学生や就学前の子どもに周知することで、子どもがそれを家庭に持って帰り、保護者に伝えることで普及ができる考える。

問 意識が高い市民にはSDGsについても知ってもらいやすいと考えるが、そうでない市民へのアプローチは。

答 マスメディアを通して発信するとともに、感度の高い市民を巻き込んでそこから広めていくという事が効果的である考える。

以 上